

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01249

研究課題名（和文）脱中心的多言語領域としての「地中海文学」の構築

研究課題名（英文）Decentralizing the "Mediterranean Literature" towards Multilingual Area Studies

研究代表者

細田 和江（HOSODA, Kazue）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員

研究者番号：80779570

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、21世紀以降の「世界文学」が西洋中心主義からの脱却を唱道しながらも、その桎梏を逃れていないという問題意識のもと、狭すぎる国民文学と広すぎる世界文学の中間域として「地中海文学」を構築する試みであった。アジア、アフリカ、ヨーロッパ地域の交差する空間として、近代以降に用いられることの少なかった「地中海」の枠組みを近現代文学に適用することで、多言語、多地域を横断する文学批評の新たな見取り図を示すことを目的とし、海外調査、研究会などで考察を深めた。最終的には対訳詩集を作成し、地中海沿岸地域の言語とそれぞれの詩のモチーフを比較することによって、地域間のゆるやかなつながり示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東南部を含めた地中海地域を中心とする近現代文学に着目した本研究は世界初といってよい。本研究では、地中海の一体性と多様性といった問題は、国民国家と言語の緊密さと緊張が生まれる近現代文学において表現されてきたのではないかという問いについて、地中海を北西部（ヨーロッパ）だけではなく、東南地域（中東・北アフリカ）を包含した一つの地域として捉えなおし、そのなかでの有機的連関に着目して議論を進めた。そうして浮かび上がってきた共通点（古代ギリシャの伝統）や相違点、多言語性や表象される風景を対訳詩集としてまとめることによって、「地中海文学」の枠組みを可視化した。

研究成果の概要（英文）：This research endeavored to establish "Mediterranean literature" as a middle ground between overly narrow national literatures and overly broad world literatures, acknowledging that "world literature" in the 21st century and beyond remains entangled in Western-centric perspectives despite aspirations for divergence. By applying the concept of the "Mediterranean" to modern and contemporary literature as a space intersecting Asia, Africa, and Europe, a framework seldom explored since the modern era, we aimed to present a novel perspective on literary criticism spanning multiple languages and regions. Our exploration was deepened through overseas surveys and study groups. Ultimately, we produced a bilingual collection of poems, allowing for a comparison of Mediterranean regions' languages and motifs, thus revealing the subtle connections between these areas.

研究分野：地域研究（イスラエル・パレスチナ）

キーワード：地中海 言語 風景 古代ギリシャ 地域文学 比較文学

## 1. 研究開始当初の背景

日本において「世界文学」は、1920年代の円本ブームから70年代以降の『世界文学全集』衰退期まで、もっぱら西洋の男性作家を中心とした「外国文学の全集」として理解されてきた。教養主義が廃れ、現代の日本社会における文学のプレゼンスが低下するなかで、『池澤夏樹=個人編集世界文学全集』(河出書房新社、2007~2011)が高い関心を集めたのは、この全集が、(1)非西欧の文学作品を採録したこと、(2)女性作家の作品を積極的に採録したこと、(3)日本文学を「世界文学」の中に組み込んだ点が評価されたからである。このような「世界文学全集」の新しい方針は、エドワード・サイードの『オリエンタリズム』以後、文学研究者たちが取り組んできたヨーロッパ中心主義批判の成果でもある。国外においても、1990年代以降、「世界文学」は、精読を旨とする国民文学研究とは異なる、新たな文学アプローチの提案の土台となってきた(たとえば、デイヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何か』。原著は2003年刊行。研究分担者の奥が日本語訳に携わった)。

しかしながら、現代の世界文学概念は、二つの課題を明らかにした。第一に、非西洋文学を西洋文学の傍流として組みこむことで、西洋中心主義がさらに強化される危険性である(研究分担者の鶴戸は「島嶼化する文学のために」『現代思想』(2013)でこの点を指摘している)。周縁の文学はこれまでも「世界文学」として論じられてきたが、主として取り上げられるのは亡命・移住といった空間的な移動、メジャー言語への戦略的参入あるいは抵抗であった。こうした研究は「世界文学」をめぐる議論を豊かにしたものの、メジャー言語圏への「越境」を行わない作家が相対的に埋没してしまう点に問題があった。第二に、多様な地域・言語の文学をあまねく取り上げることの困難である。世界文学は国民文学を結びつける役割を果たしうが、世界はあまりにも広すぎる。この問題点に対し、本研究課題申請者はこれまで科学研究費基盤研究(B)「ポスト世界文学に向けた比較詩学的共同研究の基盤構築」(平成27-30年度。研究分担者に細田、奥、鶴戸、三枝、研究協力者に古川、小久保、小林がいる)を通して、「マイナー」な言語による作品の原典精読をつうじて文学の詩的效果の問題を再検討してきた。共通のテーマ設定による、非西洋圏を中心に据えた世界文学研究は、国境を越えた共通の詩学の存在を明らかにした一方、地域性をどう考えるのかという新たな課題も生み出した。文学研究はこれまで「世界文学」と「国民文学」(言語的同質性を背景とする地域文学を含む)として二項対立の関係からもっぱら論じられてきたが、その二つの「中間域」を検討する必要があるのではないかと。

そこで、本研究ではこの課題に対し、「中間域」として「地中海」という地域を設定した。

## 2. 研究の目的

一体のものとしての「地中海」という概念は、かつては古代ギリシア・ローマの時代に限定されていたが、その後ブローデルの歴史学研究が紹介されることによって、自然条件の一体性を背景とした人と物の交流という視点から通時的に用いられるようになった。しかし歴史学の地中海研究は、古代から近世までに重点を置き、近現代は空隙となって残っている。その理由として、国民国家を中心とする近代の世界観が、超国家的な「地中海」概念に調和しないことが挙げられる。言い換えるなら、「地中海」は古代から近世においてのみ活発に論じうる領域であった。一方、文学分野においても、各民族言語による創作が主流となった近代文学について、研究の枠組の基盤は国民文学にあった。「世界文学」のなかでも頻りに論じられる「越境文学」は、それ自体が「国民国家」を前提として成立しているものである。

とはいえ、中世の地中海文学に見られた「多言語主義と翻訳流通の重要性」(Kinoshita, "Mediterranean Literature," Horden and Kinoshita eds., *A Companion to Mediterranean History*, Wiley-Blackwell, 2014)は、近代になって消滅したわけではなく、現代までそれぞれの国民文学の形成に大きな影響を与えている。たとえばボスニアでは、地元の言語による創作だけではなく、ボスニア人がペルシア語、アラビア語、トルコ語によって創作した作品をボスニア文学として高校教科書に取り入れている。多言語空間であった過去は忘却されるどころか、現在でも色濃く継承され、そうした伝統を踏まえた作品が創造される基盤となっている。また、世界中のユダヤ移民が集結した国家イスラエルでは、さまざまな言語背景を持った作家がヘブライ語創作に収斂していく一方で、アラビア語話者であるパレスチナ人の作家もヘブライ語による創作を行うなど、複雑な多言語空間が形成されてきた。

こうした問題意識のもと、本研究では、中東文学を専門とする研究代表者を中心に、ヘブライ語、アラビア語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、トルコ語、セルビア・クロアチア語、ペルシア語を専門とする中堅・若手研究者が結集し、世界初の試みとして、ヨーロッパの外側からの視点を重視し、地中海を枠組みとした近現代文学を検討する。パスカル・カサノヴァの『世界文学空間』、モレットの『遠読』はどちらも、ブローデルに影響を受けたウォーラステインの『世界システム論』を援用することで生み出された。今一度、議論の出発点である「地中海」に立ち戻り、周縁に置かれてきた文学を中心としてヨーロッパにとどまらない地中海周辺地域の近現代文学を検討することで、これまでとは異なった世界文学概念の構築を目的とした。

### 3. 研究の方法

大まかに2つのテーマを設定し研究を進めた。まず、第1に、各国文学史における「地中海文学」の位置付けについて分担・協力者が報告を行い、共通点・相違点を炙り出した。

第2に、各地域の近現代文学における言語的多様性と接続可能性(コネクティビティ)の検討をおこなった。近現代文学において、多言語性・多民族性がどのように問題化されているかについて議論をし、国家を超える文学としての接続可能性を検証する。まず、近現代文学における「地中海文学」の試みを把握する。こうした試みは多くはないものの、カミュをはじめとするアルジェリア植民地文学において構想され、また、現在ではフランスの作家イゾ、イタリアの作家カミッレリらによる「地中海ノワール」という犯罪小説のジャンルとして成立してきている。これらにおいて「地中海」に仮託されているものは何かを検証したのち、言語的多様性と接続可能性に焦点を当てる。その中で浮かび上がってきた課題、つまり現代文学において「古代」をどう捉えるかについて、ギリシャ古典の専門家に加わっていただき、議論を深めた。

### 4. 研究成果

研究機関に行う予定であった研究成果報告としてのシンポジウムや国際ワークショップの開催は叶わなかったが、各年3-4回の研究会を開催し、特に初年度から2年目に向け「地中海文学」をどう定義するかについて議論を行った。3年目からは地域を横断した文化・言語の交差について、たとえばバルカン半島地域の文学におけるエジプト、古代ギリシャのモチーフや、ロシア、イラン(ペルシア)など地中海に面していない地域の文学における地中海表象など、実存する風景としての地中海とアイデアとしての地中海の二つの表象について議論を行った。

こうした研究報告と、海外調査(主に後半)で得られた成果は、各自国際学会、論文などに昇華した。特に、鶴戸、細田は人間文化研究機構のプロジェクト「グローバル地中海」のメンバーでもあり、ワークショップ、研究会での報告・研究連携を行った(ワークショップ「《地中海文学》という多元的価値共創文学の可能性」、国立民族学博物館、2024年3月)。さらに、韓国・釜山の地中海研究所、台湾の中東研究者との研究協力を進め(釜山外国語大学地中海研究所国際年次大会“Jerusalem and Civilization Exchange in the Eastern Mediterranean”への参加、台南・成功大学・文学者、中東研究者との交流など)、今後国際ワークショップや共同研究を行う準備も継続している。

「地中海文学」としての文学作品の翻訳も各自積極的に行った。最終年度には地中海地域で使われている11言語の詩と地中海地域の写真を組み合わせた対訳詩集を刊行、地中海地域の文学の地域・時代横断性を提示することができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>鷗戸聡                          | 4. 巻<br>90          |
| 2. 論文標題<br>書評：「或るアラブ詩人と俳句の出会い」         | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>国際俳句雑誌「吟遊」                   | 6. 最初と最後の頁<br>16-17 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>鷗戸聡                          | 4. 巻<br>869         |
| 2. 論文標題<br>よそもの(エトランジェ)と生きる：イランの台所小説から | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>図書                           | 6. 最初と最後の頁<br>12-15 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|   |                        |
|---|------------------------|
| 1. 著者名<br>UDO, Satoshi                        | 4. 巻<br>1094-1095-1096 |
| 2. 論文標題<br>Resonances d'un recit fantomatique | 5. 発行年<br>2020年        |
| 3. 雑誌名<br>Europe revue literaire mensuelle    | 6. 最初と最後の頁<br>183-188  |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                 | 査読の有無<br>無             |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難        | 国際共著<br>-              |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>UDO, Satoshi   | 4. 巻<br>5             |
| 2. 論文標題<br>Cadavers and Homeland: Kateb Yacine's Poetics of Collectivity | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>Resources for Modern Middle East Studies                       | 6. 最初と最後の頁<br>143-154 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし  | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）                                    | 国際共著<br>-             |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>宮下遼   | 4. 巻<br>12         |
| 2. 論文標題<br>記憶の沈黙：オルハン・パムク『静かな家』におけるセラハッティンの『百科事典』をめぐる | 5. 発行年<br>2021年    |
| 3. 雑誌名<br>れにくさ  | 6. 最初と最後の頁<br>8-18 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                         | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                | 国際共著<br>-          |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>富田広樹   | 4. 巻<br>18            |
| 2. 論文標題<br>富田 広樹、「ちょうど真ん中の海、中庸の海 ホセ・デ・カダルソ『モロッコ人の手紙』における地中海」 | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>北九州市立大学国際論集  | 6. 最初と最後の頁<br>105 121 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                                | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）                        | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>細田和江                              | 4. 巻<br>1187          |
| 2. 論文標題<br>イスラエルの文芸誌『ケシェット』と「地中海」・「中東」への眼差し | 5. 発行年<br>2023年       |
| 3. 雑誌名<br>思想                                | 6. 最初と最後の頁<br>160-179 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし               | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難      | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 1件／うち国際学会 3件）

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>細田和江                                      |
| 2. 発表標題<br>イスラエルにおける「地中海」概念と世界文学 としての「地中海文学」の可能性（試論） |
| 3. 学会等名<br>2021年度基幹研究中東イスラーム（MEIS2）研究会               |
| 4. 発表年<br>2022年                                      |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>鶴戸聡                                       |
| 2. 発表標題<br>「ナポリ、チュニス、スコピエーホシーン・タンジャーウィー『あらゆる男たちもまた』」 |
| 3. 学会等名<br>2021年度第1回地中海文学研究会                         |
| 4. 発表年<br>2021年                                      |

|                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>細田和江                   |
| 2. 発表標題<br>イスラエルにおける「地中海」文化の歴史的背景 |
| 3. 学会等名<br>2020年度第1回地中海文学科研・研究会   |
| 4. 発表年<br>2020年                   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>細田和江   |
| 2. 発表標題<br>アハロン・アミールと「カナン主義」:イスラエルにおける文芸誌『ケシェット』(1958-1976)への評価 |
| 3. 学会等名<br>2020年度第2回「世界文化 資本 空間の史的編成をめぐる総合的研究」研究会               |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|                                 |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名<br>小久保真理江               |
| 2. 発表標題<br>「海のむこう」へのイタリア人のまなざし  |
| 3. 学会等名<br>2020年度第2回地中海文学科研・研究会 |
| 4. 発表年<br>2020年                 |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>鶴戸聡  |
| 2. 発表標題<br>日本・アルジェリア・朝鮮を結ぶアジア・アフリカの次元－堀田善衛・mamuri・金石範をめぐって－ |
| 3. 学会等名<br>植民地化・植民地支配・脱植民地化の比較研究(シンポジウム)(招待講演)              |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|                              |
|------------------------------|
| 1. 発表者名<br>富田広樹              |
| 2. 発表標題<br>ちょうど真ん中の海、中庸の海    |
| 3. 学会等名<br>2019年度第3回地中海文学研究会 |
| 4. 発表年<br>2019年              |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>宮下遼                              |
| 2. 発表標題<br>「ルームの地の文学」を考える：トルコ文学における地域性をめぐって |
| 3. 学会等名<br>2019年度第2回地中海文学研究会                |
| 4. 発表年<br>2019年                             |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Kazue HOSODA   |
| 2. 発表標題<br>Arab Wanderers of the Early 20th Century : Charif Majdalani 's Moving the Palace and Anton Shammam 's Arabesques                         |
| 3. 学会等名<br>Journ e d ' etude Charif Majdalani Atelier international en presence de l ' ecrivain : Rencontre des deux Orient, Japon - Liban ( 国際学会 ) |
| 4. 発表年<br>2020年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Kazue HOSODA   |
| 2. 発表標題<br>Erased Identity and Collective Memory in Sayed Kashua 's Works |
| 3. 学会等名<br>The Eighteenth World Congress of Jewish Studies (国際学会)         |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Kazue HOSODA   |
| 2. 発表標題<br>Historical Stories about the Mediterranean World in Israeli Literature       |
| 3. 学会等名<br>24th Annual International Congress, Mediterranean Studies Association (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2022年   |

〔図書〕 計13件

|                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>細田和江 編 | 4. 発行年<br>2024年 |
| 2. 出版社<br>自費出版   | 5. 総ページ数<br>140 |
| 3. 書名<br>地中海詞華集  |                 |

|                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>オルハン・パムク、宮下遼 | 4. 発行年<br>2022年 |
| 2. 出版社<br>早川書房         | 5. 総ページ数<br>506 |
| 3. 書名<br>ペストの夜 上       |                 |

|                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>オルハン・パムク、宮下遼 | 4. 発行年<br>2022年 |
| 2. 出版社<br>早川書房         | 5. 総ページ数<br>495 |
| 3. 書名<br>ペストの夜 下       |                 |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>西尾 哲夫、東長 靖（細田和江）                                  | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>ミネルヴァ書房   | 5. 総ページ数<br>392 |
| 3. 書名<br>中東・イスラーム世界への30の扉（「響きあう異なる声 多言語世界のアイデンティティ」347-357） |                 |

|                          |                 |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>鷗戸聡 他訳         | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>自費出版           | 5. 総ページ数<br>100 |
| 3. 書名<br>ルニス・アイト=メンゲット詩集 |                 |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>西尾 哲夫、東長 靖（鷗戸聡）                             | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>ミネルヴァ書房                                     | 5. 総ページ数<br>392 |
| 3. 書名<br>中東・イスラーム世界への30の扉（「母語でも外国語でもない言葉：アラブ人とフランス語」） |                 |

|                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>宮下 遼         | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>中央公論新社       | 5. 総ページ数<br>304 |
| 3. 書名<br>物語 イスタンブールの歴史 |                 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>小川公代、吉村和明（奥彩子）                         | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>春風社                                    | 5. 総ページ数<br>500 |
| 3. 書名<br>文学とアダプテーションII（「ふたつの『クロイツェル・ソナタ』371-399） |                 |

|                              |                 |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>エレナ・ボニアトウスカ（富田弘樹訳） | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>水声社                | 5. 総ページ数<br>552 |
| 3. 書名<br>レオノーラ               |                 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>鈴木 重、近藤 二郎、赤堀 雅幸（細田和江）                         | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>丸善出版   | 5. 総ページ数<br>826 |
| 3. 書名<br>中東・オリエント文化事典（イスラエルの映画、イスラエル文学 404-405, 462-463） |                 |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>鈴木 董、近藤 二郎、赤堀 雅幸（鶴戸聡）                   | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>丸善出版                                    | 5. 総ページ数<br>826 |
| 3. 書名<br>中東・オリエント文化事典（「マグリブ文学」「アラブの演劇」「北アフリカの演劇」） |                 |

|                                 |                 |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>奥 彩子、鶴戸 聡、中村 隆之、福嶋 伸洋 | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>松籟社                   | 5. 総ページ数<br>288 |
| 3. 書名<br>世界の文学、文学の世界            |                 |

|                              |                 |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>ドゥブラヴカ・ウグレシッチ、奥 彩子 | 4. 発行年<br>2023年 |
| 2. 出版社<br>白水社                | 5. 総ページ数<br>346 |
| 3. 書名<br>きつね                 |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                      | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                                  | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究分担者 | 宮下 遼<br><br>(Miyashida Ryo)<br><br>(00736069)  | 大阪大学・言語文化研究科（言語社会専攻、日本語・日本文化専攻）・准教授<br><br><br>(14401) |    |
| 研究分担者 | 富田 広樹<br><br>(Tomita Hiroki)<br><br>(00757495) | 北九州市立大学・文学部・准教授<br><br><br>(27101)                     |    |

6. 研究組織（つづき）

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                       | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                          | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 小久保 真理江<br><br>(Kokubo Marie)<br><br>(00815277) | 東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授<br><br><br><br>(12603) |    |
| 研究分担者 | 鵜戸 聡<br><br>(Udo Satoshi)<br><br>(70713981)     | 明治大学・国際日本学部・専任准教授<br><br><br><br>(32682)       |    |
| 研究分担者 | 奥 彩子<br><br>(Oku Ayako)<br><br>(90513169)       | 共立女子大学・文芸学部・教授<br><br><br><br>(32608)          |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|         |         |